

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 7 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2011～2014

課題番号：23241082

研究課題名(和文) タイ・インドシナ諸国間の国境政治の多面的体系的解明：一次資料の相互比較を通じて

研究課題名(英文) A Detailed Study of Modern History of Cross-Border Politics in Mainland Southeast Asia

研究代表者

村嶋 英治 (Murashima, Eiji)

早稲田大学・アジア太平洋研究科・教授

研究者番号：70239515

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 33,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、東南アジア大陸部、とりわけタイ国とインドシナを対象として、植民地期から現在に至る時期の国境を繞る政治を、一次資料に依拠してできるだけ詳細に明らかにしようとしたものである。19世紀末におけるタイ・ラオス・カンボジア国境を跨ぐ仏教交流、1920 - 30年代のタイ・ラオス・ベトナム・中国国境を跨ぐ共産主義運動の連携、1940年代のタイ・仏領インドシナ紛争から植民地独立期における相互関係、現在におけるカンボジア・ラオス・ベトナム国境開発と大陸部東南アジアを横断する東西廻廊などを取り上げ、既に論文32本、研究書8冊等を刊行した。引続き、この研究により収集した資料を基に、更なる成果を準備中である。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is to increase historical and contemporary knowledge on cross-border politics in mainland Southeast Asia (mainly Thailand, Vietnam, Cambodia and Laos) relying on the primary archival documents written in vernacular and Western languages. The following topics are treated, such as Buddhism intercourse among Thailand, Cambodia and Laos in the 19th Century, Communist cooperation among Thailand, Laos, Vietnam in the 1920-30s, Thai-Indochina relations and social changes in the age of independence in the 1940s, and cooperation for development in the Mekong border areas in Vietnam, Cambodia and Laos. As the result 32 articles and 8 research papers were published.

研究分野：東南アジア地域研究

キーワード：東南アジア大陸部現代史 東南アジア地域研究 東南アジア国際関係 脱植民地化

1. 研究開始当初の背景

2008 年半ば以来、プレア・ヴィヒア遺跡周辺の領有権を巡ってタイ、カンボジア間に断続的な武力衝突が生じていることは耳新しい。1 世紀前に東南アジア大陸部に出現した国境線に起因して生じた諸紛争、諸制度、あるいは諸政治活動を国境政治と総称すれば、この衝突も国境政治の現れである。国境政治研究は今日的意義が大きい。しかし、既存研究は、国境の片方側のみの資料に拠った片面的研究であり、しかも断片的である。

2. 研究の目的

本研究の新しさは、既存研究の限界を克服するため、各国の言語・資料に通暁した専門家チームを組織し、諸公文書館資料を横断的、双方向的に調査照合し、かつ実地調査を行うことによって、1 世紀に亘る東南アジア大陸部の国境政治に関して既存知識に追加・修正を加えることにある。

3. 研究の方法

具体的には

19 世紀末におけるタイ・ラオス・カンボジア国境を跨ぐ仏教交流、

1920 - 30 年代におけるタイ・ラオス・ベトナム・中国国境を跨ぐ共産主義運動の連携、

1940 年代のタイ・仏領インドシナ紛争から植民地独立期における相互関係と内政、

現在におけるカンボジア・ラオス・ベトナム国境開発と大陸部東南アジアを横断する東西廻廊、

2000 年代以降のタイ・カンボジア間のカオ・プラ・ウィハーン(プレア・ヴィヒア)紛争問題などに関し、共同で現地調査を実施するとともに、次の公文書館等において文献調査を実施した。即ち、バンコクのタイ国立公文書館・国立図書館、海軍文書室、ホーチミン市の国家第 2 文書館、パリの国防省資料館、エックサンプロバンスの旧植民地省文書館、プノンペンのカンボジア国立公文書館。なかでも、タイ国立公文書館では、大量のマイクロフィルム資料を購入した。

4. 研究成果

下記 5 に示すように、この間の研究成果は論文 32 本、学会発表 10 件、図書 8 冊である。その主要な内容は、次のように分類できる。

19 世紀後半における、タイからカンボジア、ラオスへの新仏教宗派、タマユット派(クメール語ではトアンマユット派)の進出を、東南アジア大陸部の仏教の史的変遷の中で位置づけようと試みたこと。

1930 年代におけるシャム共産党、インドシナ共産党およびインドシナ共産党のラオス党組織、中国共産党との関係を明らかにしたこと。

1930 - 40 年代において、カンボジアで、タイ語からの影響をいかに排除して、カンボジアの国語を創りだしたのか、タイ仏領インドシナ紛争において、タイ政府はいかにインドシナ人の協力を確保しようとしたのか、戦後のフランスのインドシナ復帰後タイが回復した旧領土はどのように扱われたか、タイ自由タイ政府とインドシナ革命派の協力関係等について明らかにした。

また、フランスと日本人戦犯裁判の関わり、第二次世界大戦勃発直前にインドシナからフランス本国に送られた約 2 万人の労働者が戦後、祖国に送還されるが、この送還事業の具体的な過程やそれをめぐる問題について新しい事実を発掘した。

現在進行中の事例としては、カンボジア、ラオス、ベトナム開発の三角地帯構想の成立経緯、日本政府の支援を詳細に明らかにし、また、タイとカンボジア間のカオ・プラ・ウィハーン(プレア・ヴィヒア)遺跡の領有権問題について、2008 ~ 2011 年に武力衝突にまで至ったが、本件に関し十分な資料を収集した。

本研究で収集した資料は、相当の分量に上り、研究期間終了までに論文化できなかつたものも多いため、今後の執筆・刊行を予定している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 32 件)

村嶋 英治、バンコクにおける日本人商業の起源：名古屋紳商(野々垣直次郎、長坂多門)のタイ進出、アジア太平洋討究、査読無、24 号、2015、39-69

白石 昌也、カンボジア、ラオス、ベトナム国境<開発の三角地帯>に対する日本政府の支援事業：日本 ASEAN 統合基金(JAIF)を通じての支援(2008 ~ 2013)、アジア太平洋討究、査読無、24 号、2015、1-37

SASAGAWA Hideo, The Establishment of the National Language in Twentieth-Century Cambodia: Debates on Orthography and Coinage, *Southeast Asian Studies*, 査読有, Vol. 4, No. 1, 2015, 43-72

村嶋 英治、日本人タイ研究者第一号：岩本千綱、クルンテープ、査読無、555-566 号連載、2014-2015、合計 105 頁

白石 昌也、カンボジア、ラオス、ベトナム国境<開発の三角地帯>に対する日本政府の支援事業：2005 ~ 2007 年度、アジア太平洋討究、査読無、23 号、2014、203-234

SHIRAIISHI Masaya, ASEAN Centrality and External Relations in the Asia-Pacific in Yasushi Kikuchi & Vesselin Popovski

eds., *Building ASEAN Identity on a Transitional Dimension*, United Nations University, Tokyo, 査読無、2014, 137-149

SASAGAWA Hideo, Appraising the Research Value of the Cambodian Official Gazettes, *CSEAS News Letter*, 査読無、No. 70, 2014, 20-21

村嶋 英治、日本人タイ研究者第一号：岩本千綱、クルンテープ、査読無、543-554号連載、2013-2014、合計79頁
村嶋 英治、戦前期タイ国の日本人会および日本人社会：いくつかの謎の解明、『タイと共に歩んで、泰国日本人会百年史』（バンコク）所収、査読無、2013、13-49

白石 昌也、カンボジア、ラオス、ベトナム『開発の三角地帯』構想の成立経緯と概観、*アジア太平洋討究*、査読無、19号、2013、1-44

白石 昌也、カンボジア、ラオス、ベトナム国境三角地帯の開発構想に対する日本政府の支援：2004-2007年、*アジア太平洋討究*、査読無、20号、2013、333-345

白石 昌也、カンボジア、ラオス、ベトナム国境三角地帯の開発構想に対する日本政府の支援：2008-2012年、*アジア太平洋討究*、査読無、21号、2013、23-37

白石 昌也、ベトナムの文化遺産保護と法制、*アジア太平洋討究*、査読無、21号、2013、259-267

白石 昌也、ファン・ボイ・チャウ：ベトナムの社会ダーウィニスト、趙景達ほか編『東アジアの知識人』第2巻（近代国家の形成）（有志舎）所収、査読無、2013、83-99

SHIRAIISHI Masaya, Southern Economic Corridor: Moc Bai-Bavet Border, in ISHIDA Masami ed., *Border Economies in the Greater Mekong Subregion*, IDE-JETRO, Tokyo, 査読有、2013, 79-106
SHIRAIISHI Masaya, East-West Economic Corridor: Lao Bao-Densavanh Border Gate, in ISHIDA Masami ed., *Border Economies in the Greater Mekong Subregion*, IDE-JETRO, Tokyo, 査読有、2013, 133-162

笹川 秀夫、カンボジア上座仏教寺院の史的变化(1) - 官報からの歴史データの分析に向けて、『宗教と地域の時空間マッピングニューズレター』、査読無、6号、2013、1-13

笹川 秀夫、カンボジア上座仏教寺院に関する歴史データ、林行夫ほか編『宗教実践を可視化する - 大陸部東南アジア上座仏教徒の寺院と移動』、査読無、CIAS Discussion Paper No. 42、2013、83-91
NAMBA Chizuru, *La France face aux procès de Saigon et de Tokyo*,

Outre-Mers, Revue d'histoire, 査読有、No. 380-381, 2013, 313-331

MURASHIMA Eiji, *The Origins of Chinese Nationalism in Thailand*, *アジア太平洋討究*、査読無、21号、2013、149-172

21 白石 昌也、カンボジア、ラオス、ベトナム『開発の三角地帯』構想の成立経緯と概観、*アジア太平洋討究*、査読無、19号、2013、1-44

22 白石 昌也、カンボジア、ラオス、ベトナム国境三角地帯の開発構想に対する日本政府の支援：2004-2007年、*アジア太平洋討究*、査読無、20号、2013、333-345

23 村嶋 英治、日本人タイ研究者第一号：岩本千綱、クルンテープ、査読無、531-542号連載、2012-2013、合計55頁

24 笹川 秀夫、20世紀カンボジアにおける言語政策：正書法と新造語をめぐる議論を中心として、*アジア太平洋討究*、査読無、18号、2012、143-166

25 白石 昌也、メコン地域協力と中国、日本、アメリカ、ワセダアジアレビュー、査読無、12号、2012、10-16

26 村嶋 英治、暹羅協会創設当時の日本とタイの交流状況：タイ側から見た日本、*タイ国情報*、査読無、46巻6号、2012、118-132

27 ITO Tomomi, Questions of ordination legitimacy for newly ordained Theravada bhikkhuni in Thailand, *Journal of Southeast Asian Studies*, 査読有、43(1), 2012, 55-76

28 白石 昌也、日本の対インドシナ・メコン地域政策の変遷、*アジア太平洋討究*、査読無、17号、2011、1-39

29 伊藤 友美、タイ華人の習合的信仰世界における仏教と道教の境界についての小考察、*タイ国情報*、査読無、45(3)、2011、83-93

30 伊藤 友美、スリランカ・タイにおける女性修行者と八戒実践の諸形態、*パーリ学仏教文化学*、査読無、25号、2011、117-137

31 難波 ちづる、第二次世界大戦後におけるフランスのインドシナ復帰 戦時期の清算と対日本人戦犯裁判、*三田学会雑誌*、査読無、104巻2号、2011、179-206

32 村嶋 英治、現地報告 ウィエンチャンの変容、*アジア太平洋討究*、査読無、16号、2011、195-202

[学会発表](計10件)

NAMBA Chizuru, "French-Japanese 'Coexistence' in Indochina during World War II", *International Conference on Culture, Society, and History of Contemporary Vietnam*,

October 30, 2014, Center for Asia-Pacific Area Studies, Academia Sinica, Taipei, Taiwan

NAMBA Chizuru, "Returning Home from the 'Home Country': Repatriation Issue of Indochinese Laborers in the Post-World War II Period", French Colonial Historical Society, June 26-27, 2014 Pannasastra University, Siem Reap, Cambodia

伊藤 友美「現代タイ仏教とブッタート比丘 一つの社会史」東南アジア学会第91回研究大会、東南アジア史学会賞受賞記念講演、2014年6月7日、南山大学

NAMBA Chizuru, "Propagandes et rivalité culturelles dans l'Indochine de Decoux" シンポジウム De l'Indochine coloniale au Vietnam actuel, 2014年3月21日、フランス・パリ L'Académie des sciences d'outre-Mer

笹川 秀夫「カンボジア上座仏教寺院に関する歴史・地理データのデジタル化」京都大学地域研究統合情報センター地域情報学プロジェクト「大陸部東南アジア仏教徒社会の時空間マッピング」国際ワークショップでの口頭発表、於タイ、バンコク、チュラロンコーン大学社会調査研究所、2013年2月27日

SHIRAIISHI Masaya, "Tieu vung Me Kong voi Trung Quoc, Nhat Ban va My" (越語: メコン・サブ地域と中国、日本、米国)(招待講演) 日越シンポジウム: 2 Hanh Lang 1Van Dai Kinh Te Trung-Viet (中越2回廊1経済ベルト) 2012年2月21日、中国研究所、ハノイ

笹川 秀夫「東南アジアの文化ナショナリズム再考 - カンボジアの事例を中心として」東南アジア学会第86回研究大会統一シンポジウム「グローバル化時代の国家と地域 - 第三世界ロマン以後の東南アジア論に向けて」での口頭発表、於東海大学高輪キャンパス、2011年12月4日

SHIRAIISHI Masaya, "Value Chains in Indochina", Mekong Forum, 2011年7月12日、コンケン、タイ国

笹川 秀夫「プラ・ウィハーン/ブレア・ヴィヒアをめぐるカンボジアとのいさかい」日本タイ学会、第13回研究大会、企画Aパネル・ディスカッションでの口頭発表、於愛知大学、2011年7月2日

ITO Tomomi, "Dhammic Socialism: A Buddhist vision of just social order in 1970s' Thailand", The XVIth Congress of the International Association of Buddhist Studies, Dharma Drum Buddhist College, Taiwan, 23 June 2011.

〔図書〕(計8件)

- SHIRAIISHI Masaya ed., 早稲田大学アジア太平洋研究センター, *Indochina, Thailand, Japan and France during World War : Overview of Existing Literature and Related Documents for Future Development of Researches*, 2015, +434
- 白石 昌也, アジア太平洋研究センター, 日本の「戦略的パートナーシップ」外交: 全体像の俯瞰, 2014, +585
- 村嶋 英治・吉田千之輔, アジア太平洋研究センター, 戦前の財団法人日本タイ協会会報集成解題, 2013, 284
- NAMBA Chizuru, Éditions Karthala, *Français et Japonais en Indochine (1940-1945) : colonisation, propagande et rivalité culturelle*, 2012, 229
- ITO Tomomi, National University of Singapore Press, *Modern Thai Buddhism and Buddhadasa Bhikkhu: A Social History*, 2012, 360
- 白石 昌也, 彩流社, 日本をめざしたベトナムの英雄と皇子: ファン・ボイ・チャウとクオン・デ, 2012, 251
- 村嶋 英治・鄭成, アジア太平洋研究センター, 中国に帰ったタイ華僑共産党員: 欧陽恵氏のバンコク、延安、大連、吉林、北京での経験, 2012, 241
- MURASHIMA Eiji, Matichon, *Kamnoet Phak Khomunist Sayam 1927-1936*, 2012, 234

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

村嶋 英治 (MURASHIMA, Eiji)
早稲田大学・大学院アジア太平洋研究科・
教授
研究者番号：70239515

(2) 研究分担者

白石 昌也 (SHIRAIISHI, Masaya)
早稲田大学・大学院アジア太平洋研究科・
教授
研究者番号：70127330

笹川 秀夫 (SASAGAWA, Hideo)
立命館アジア太平洋大学・アジア太平洋学
部・准教授
研究者番号：10435175

難波 ちづる (NAMBA, Chizuru)
慶應義塾大学・経済学部・准教授
研究者番号：20296734

(3) 連携研究者

伊藤 友美 (ITO, Tomomi)
神戸大学・大学院国際文化科学研究科・准教
授
研究者番号：40337746